

AVC-Intra ならではのパフォーマンスを発揮 ノントラブルで画質面も大きな評価

映画

「大決戦！超ウルトラ 8 兄弟」

撮影監督：高橋創氏

11

2008 年秋に大ヒット公開し、2009 年 1 月 23 日から DVD・BD 発売(バンダイビジュアル)する映画「大決戦！超ウルトラ 8 兄弟」は、メモリーカード・カメラレコーダー “P2 cam” 「AJ-HPX3000G」を中心に撮影され、P2HD / AVC-Intra による制作・編集ワークフローを採用している。

映画「大決戦！超ウルトラ 8 兄弟」は、開港 150 周年を迎える横浜を舞台に歴代の 8 大ウルトラマンが一堂に会し、襲来した大怪獣軍団との決戦を一大スケールで描いた作品。撮影は、本編については全編にわたり「AJ-HPX3000G」を使用するとともに、ミニチュア撮影などの特撮部分は VARICAM 「AJ-HDC27H」+ビデオディスクレコーダー(計測技術研究所)による収録が行われ、完全テープレスのワークフローを構築した。

AJ-HPX3000G による本編撮影は 1080/24p で収録、メモリーカード・ポータブルレコーダー/プレーヤー “P2 mobile” 「AJ-HPM100」を通して撮影現場でプレビューを実施するとともに、1 ヶ月以上にわたった撮影期間の全日、撮影終了後に撮影素材を編集拠点(ビジョンユニバース)に搬入した。Final Cut Pro によるオフライン/オンライン編集を行い、合成作業は Inferno で実施。上映用フィルムは IMAGICA のレーザーキネコで作成した。

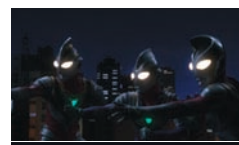
VFX スーパーバイザーを務めた斉藤隆明氏は、「同シリーズは最終的にフィルム上映する映画作品で、これまで 35mm フィルムで撮影してきましたが、今回初めて HD 撮影を採用しました。HD 作品でありながら、P2 を使用することでポストプロダクションにおける完全テープレス作業が実現できました。今回、AVC-Intra のスペックを最大限に活かした効率的なフローを構築できたと考えています」と話す。

撮影監督を務めた高橋創氏(フリー)

○撮影は全く違和感なく臨むことができました。撮影現場では AJ-HPM100 を通してプレビューを行いました。撮影日の異なるシーンのつながりをその場で確認できることや、特撮カットの合成を想定した本編撮



撮影風景



ポスターとテレビCM

© 2008 「大決戦！超ウルトラ8兄弟」製作委員会

12

影の確認などを、マスタークオリティで行える点は非常に大きいと思います。これまでは画質の悪いビジコンテープを確認しながら、撮影の角度等を決定していました。合成作業やシカケの多い「ウルトラマン」のような撮影では、現場においてマスタークオリティで確認できることは正に画期的だと思いました。

○ P2カードは16GB × 10枚をローテーションで使用しましたが、1日分の撮影データは32GB容量で概ね足りていました。データの保存や移設、変換などについても全くのノントラブル。当初はデータで大丈夫なのか？と危惧する人もいたようですが、最終的にはP2ならではのレスポンスの良さなど、便利さだけが際立った結果が得られました。

○ 撮影現場ではバックアップ用としてAG-DVX100を同時に回しましたが、その素材をビジコン用として活用し、非常に便利でした。これまでは撮影素材をダウンコンバートした膨大なVHSテープを衣装ケースに収納して現場に持ち込んでいたため、確認するカットを探し出す作業は「〇月〇日のこのロールのどの辺り」といった見当をつけながら行っていました。データであれば、撮影の内容は一目瞭然であり、整理も簡単です。

○ AJ-HPX3000Gは特に画質面においても、非常に高い評価が得られています。フィルムのルックを出しながら、HDならではのパフォーマンスの良さがあります。空気感を出すためにシネレンズを使用したほか、本編はフィルターワークでビデオ特有の深度をなるべく浅くし、一方の特撮ではできるだけミニチュアの手前から奥までピントが合うようにしています。複数のデジタルムービーカメラがリリースされている現状で、デジタルネイティブでもあるVARICAMの今後の動向にも非常に期待しています。

